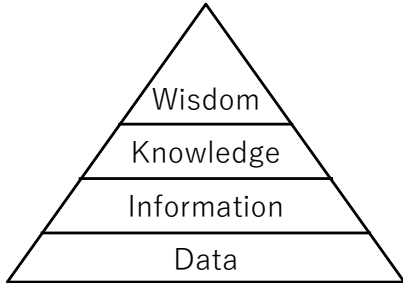
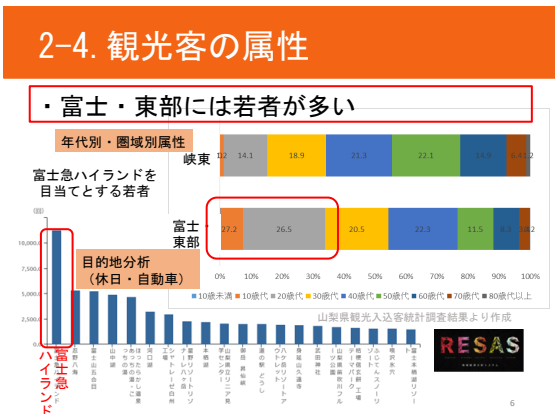


学校区分	学年	地方創生☆政策立案発表会			山梨大学 生命環境学部 地域社会システム学科
大学	3				
教科名	科目名	単元名	授業時間目安		活用したRESASデータ（マップ名等を記入）
専門科目	数理計画法	地方自治体の課題	14	時間	人口マップ、地域経済循環マップ、産業構造マップ、観光マップなど

目的やねらい 背景や経緯	目的 地方自治体が抱える課題を定義して、RESASなどのデータに基づいて裏付けをする。次に、課題解決に向けた政策を独自に立案する。数理的な分析手法の基礎を身につけ、地域社会における課題の発見から解決までの実践的な流れを学習する。 背景 地域社会システム学科（文系学科）では、経済・経営・政治・行政・法律・地域計画・観光に関する専門的知識に加え、数理的な分析手法と実践的なスキルを学ぶことができる。行政機関や民間企業などで地域社会をマネジメントできる人材になることを目指している。本単元は2019年度から2025年度まで継続して実践しており、例年、48名程度（1学年定員）が履修している。		
取組内容	概要 受講者は下記のDIKWモデルを念頭に政策立案を進める。対象地域のデータや情報の収集は情報処理教室において演習形式で実施する。政策立案の発表は5回に分けて、教室のスクリーンに投影する。質疑応答などを踏まえて最終レポートを提出する。  DIKW model	授業の構成・カリキュラム等 (1) 地方版総合戦略の把握 地方自治体を選定する。対象地域の地方版総合戦略を読み解き、概要をまとめる。地方創生☆政策アイデアコンテストを閲覧して、過去の事例を参照する。 (2) 発表資料の準備 過去の発表資料をひな形として提示する。地方版総合戦略、RESAS、e-Stat、わがマチ・わがムラなどを参照して、対象地域の課題を具体的に見える化する。 (3) 政策立案の発表 受講者は5分間の口頭発表および3分間の質疑応答を実施する。聴講者はMoodle（e-learningシステム）の助言シートに記入する。 (4) 最終レポートの提出 受講者は聴講者の助言シートを参考に政策立案の内容を吟味して最終レポートにまとめる。特に、現状把握に留まらず、政策の展開に繋げることを重視する。	活動の様子 過去の発表資料は2017年の韮崎市および山梨県峡東地域を提示している。RESASは、地域特性を把握する役割を果たしている。 
	成果 (発見・気づき) および課題	成果 大学生を対象とした場合、地方自治体の選定が多様になることが大きな特徴である。他の専門科目で学んだ手法（SWOT分析など）を適用することも可能である。地方自治体が抱える課題を分析した経験は就職活動（地方公務員など）にも役立っている。 課題 基本的に個人発表であるが、対象地域の選定が重複した場合は、グループ発表として対応している。過去の発表資料をひな形として提示しているが、RESASの更新内容（例：産業マップ花火図や観光マップ目的地分析の削除）を考慮する必要がある。	